

2023年4月2日（復活前主日、A年）

牧師メッセージ

「主イエスはわたしたちのために死んだ」

（マタイによる福音書26:36～27:66）

司祭ヨセフ太田信三

主イエスの十字架への一週間、残酷な人間の姿が明らかにされます。自分の期待や想像に固執し、思考停止し、増幅する憎悪に支配されてしまう人間の姿、集団心理の恐ろしさ。群衆もさることながら、何が正しいかをぼんやりと認識していながらも、責任を逃れようとする為政者の姿、そして、裏切ってしまう弟子たち。ゴルゴタへの道のりは、このような人間の闇が明らかにされていく道のりです。この弱き存在、人間が主イエスを十字架上で殺すのです。いよいよ一週間後に祝おうとしている復活日、わたしたちはこの人間の闇、罪深さを自らのうちに認めぬままに、まことに喜ぶことはできません。主イエスを十字架につけた人びと、あの人びとはすべて、わたしたちです。この一週間、わたしたちは自らを省み、ゴルゴタへの道のりに、自らの存在を認めなければなりません。人間は、自分はどうしようもない、と痛感するかもしれません。しかし、そのどうしようもない自分のために、主イエスは十字架に登ってくださいました。そして、神はその主イエスを復活させました。この物語に他人事でいては、この出来事に込められた神の愛を、救いをいただくことはできません。むしろ、主イエスの十字架への道のりに自らの存在を認めるとき、わたしたちは百人隊長のように信仰告白に至る、まことの救い主との出会いに与ります。そしてその出会いのゆえにこそ、ご復活という究極の救いの出来事を心から祝うことができるのです。

主イエスは十字架上で苦しみを引き受けられました。すべての苦しみや悲しみにある、孤独の中にある命と共にあるためです。主イエスは、わたしたちが無視してしまっている悲しみや苦しみと共におられます。また、わたしたちが、苦しみや悲しみにあるとき、主イエスは共におられます。主イエスの十字架の姿は、わたしたちが苦しみや悲しみに無関心でいることを許しません。十字架を見つめるとき、そこにわたしたちの代わりにすべてを引き受けた方がおられます。十字架はファッションではありません。処刑道具です。なぜ神の子が残酷な処刑道具の上で死ななければならなかったのか、なぜまことの王がそこに自ら登ったのか…。十字架はわたしたちに問いかけます。それらの問に直面することから、わたしたちの目は開かれていくのです。

この一週間、自らを省みつつ、十字架を見つめましょう。十字架上の主イエスの沈黙のお姿ほどにわたしたちに語りかけるものはありません。その姿を見る時、わたしたちの奢りや偉くなろうとする心、闇に支配される弱く頑なな心が砕かれます。それらを主イエスは十字架上でご自分の命もろとも砕いてくださったからです。その姿を見るなら、わたしたちは砕かれ、神の愛をいただく心が与えられます。主イエスは十字架上で、両手を広げて自らの命をささげました。主イエスは今も、御手を広げてわたしたちを神との愛の交わりへと招いておられます。わたしたちも両腕に抱えているものを手放し、両手を開いて主イエスのもとへと向かいましょう。イースターまであと一週間です。